

第3回

テーマ『パープル』

直方市男女共同参画 フォトコンテスト

結果発表

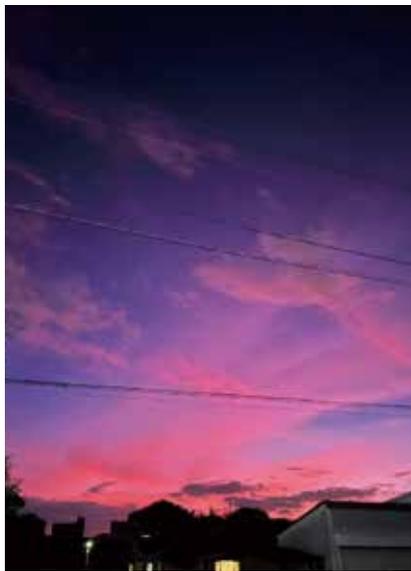
昨年11月～12月に、誰もが自分の能力や個性を発揮することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて、理解と関心を深め、実現するために何ができるか考えてもらう機会を作るため、男女共同参画にちなんだテーマでフォトコンテストを実施しました。

たくさんの応募ありがとうございました!最優秀賞と優秀賞に決定した3枚を発表いたします。



最優秀賞

【タイトル】
充実
【ペンネーム】
タンタン
【撮影場所】
直方市山部
職場の駐車場
【作品についてひとこと】
1日の充実感が空に
現れたようでした。



優秀賞

【タイトル】 Only One 【ペンネーム】 よーよー
【撮影場所】 直方リバーサイドパーク
【作品についてひとこと】
1本色が違えど土俵（咲く場所、環境）は一緒、
みんな違ってみんな良い。



優秀賞

【タイトル】 朝日を受けて輝くチューリップ
【ペンネーム】 YUKIE
【撮影場所】 のおがたチューリップフェア会場
【作品についてひとこと】
紫色をメインに、朝日に照らされた色とりどりの
チューリップが映える構図にしました。



みんなから寄せられた「男女共同参画とは?」

フォトコンテストで募集したひとことを一部紹介します。

- 男女で分けるのではなく、あくまでも個々の得意や不得意を考え、得意とする事や、好きな事を伸ばして行くことが大事で、そういった社会の仕組みを作って行く事が男女共同参画だと思います。
- 好きなものは人それぞれで、やりたいことも一人ひとり違うのは当たり前だから、自分がしたいことをすればいいと思う。
- 視点が違えば、身近な物の見方がかわる。きっと、それぞれが違う視点を持つ余裕があれば、性別関係なく優しさが生まれるのではないかと思います。
- お互いを尊敬する気持ちを忘れないことが大事。また、相手を尊重し、思いやりをもって接すること。つまりは「愛」。
- 性別による「こうあるべき」という固定概念をなくし、男女が協力しながら社会を作る意識と性別による役割の違いを刷り込まない教育をしていけば「男女」という枠を超えて自分らしく輝ける社会になると思う。

★抽選当選者は下記10人です★

やっぴ、猫好き、sandglass、ゆいゆい、まっちゃん、
壮大な小指、ルイリンパパ、senna、kano、だいすけP

まちの話題



独創的な世界観で 現代風に表現

1月18日、直方谷尾美術館で「おがた子どもアート大賞展」の表彰式が行われました。

969点の応募の中から、大賞に選ばれた深見幸弘さん（南小学校5年生）の作品「大谷とドクロ」。深見さんは、ドクロを絡めた現代風な作品をイメージして大谷翔平選手を登場させた作品を制作しました。野球が好きなドクロということ、目は野球ボールにし、別の世界から大谷選手をのぞいているように描いています。また、雲や月で妖怪の世界を表現しました。深見さんは、「昨年も賞をもらうことができたが、今年は大賞をとりたいと思っていたので、とても嬉しい。もっと上手にかけるようになりたい」と語りました。



園児対象のお金の勉強会

1月22日、中泉の清光寺幼稚園で「お金の勉強会」が実施され、西日本シティ銀行の行員が講師を務めました。園の「小さいころからお金の重要さを学んで欲しい」という思いから実現したものです。

園児たちはクイズやゲームを通して、楽しくお金に関する知識を学び、「銀行の機械（ATM）に食べられたお金はどこにいくの？」と、とても面白い質問も飛び出しました。講師は「園児向けの勉強会は初めて。こどもたちにお金の大切さが伝われば嬉しい」と語りました。

清光寺幼稚園と西日本シティ銀行は、市が推進するSDGs推進パートナー制度に登録しており、今回の勉強会もその制度をきっかけに実施されました。



地域づくりに尽力する 高校生団体を表彰

2月1日、ユメニイのおがたで、県内の地域団体の連携を深めるため「令和6年度ふくおか地域づくりフォーラム」が開催されました。

フォーラムでは、ふくおか地域づくり活動賞として、応募のあった16団体の中から、おがたSDGs推進パートナーに登録する「学生団体ふーぷ」が準グランプリに選出されました。同団体代表の金子遥花さん（八幡高校1年）と副代表の見田朝美さん（鞍手高校1年）が登壇し、市内を中心に行ってきた「高齢者のためのスマホ教室」等の活動について発表しました。

金子さんは、「多くの人の支えで活動できている。今後も感謝の気持ちを忘れず、ボランティア活動に取り組みたい」と語りました。



有志団体から支援

事務車両寄贈

2月4日、本市の消防行政を支援し、防災活動に貢献している直方市まとい会から、消防本部に車両1台が寄贈されました。車両は、同会員の会費および寄付を集めて寄贈されたもので、安全性能に優れた車両となっています。主に出張、研修や会議等に使用される予定です。同会会長の田代英次さんは「消防行政の更なる推進に努められ、市民の負託に応えてほしい」と語りました。

大塚市長は「日頃からの支援に感謝している。市民の安全安心を守るために活用したい」と感謝を述べました。

